

ティンパニ

弾力のなくなった古いティンパニヘッドは余韻や輝きも失われ、音程も取りにくく、音域も狭くなります。

1年に1度の交換が理想と言えるでしょう。

ここではヘッドの基本チューニングを簡単にお伝えします。



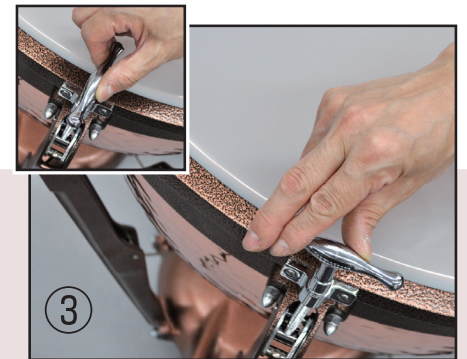
付け替えたヘッド（再調整の場合は十分にゆるめられたヘッド）の中心を手の平で軽く押し、ケトルとヘッドの接点部分（ヘッドカラー）に凹凸のしわが見られます（図①）。

このしわがなくなるまでチューニングロッドを少しずつ締めていきます。

1カ所をあまり強く締め過ぎないように注意して、ていねいにバランス良く張ります。

全体のしわがなくなったら（図②）、もう1度ヘッドの中心を少し強く押ししてみます。

まだしわが出る箇所があれば、その部分のチューニングロッドをさらに締めていきます。この時点がチューニングの出発点ということになります。



まず各ロッド周辺をマレットで軽く叩いて音程（ピッチ）を均等に合わせます。通常ここまでの作業が的確に行われれば、大きな音程の差は感じられないでしょう。この時点ではまだ各楽器の最低音以下の音程となっています。ここから各ロッドを同じ角度で締めていきます。たとえば90度ずつ（図③）、または180度ずつ…など。

この動作を何度かくり返して、その楽器の持つ最低音が出る場所までピッチを上げていきます。

最低音近くの音程が感じられたところでペダルをつま先方向にいっぱい踏み込んで（図④）、その楽器の最高音または必要とされる音域まで出るかどうか確認をします。



各チューニングロッドをていねいに調整し、ロッド周辺の音程を合わせていきます。

均等に合わされた時点で、実際に演奏する音域がカバーされているかを確認します。

さらにペダルを数回上下運動させてヘッドをならした後、最低音と最高音を再度確認、調整します。

すべての調整がすんだ時点でチューニングゲージの音駒をセットします（図⑤）。

以上でチューニング終了、ベストサウンドの完成ということになります。